

開講科目名 / Course	学校教育心理学	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	藤田 文	
担当教員名 / Instructor	藤田 文	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	教職課程や心理学における教育心理学の位置づけから入り、発達、知能、パーソナリティ、学習などの個々の生徒を理解するために必要な知識を習得する。さらに、教員としての教育心理学的な知識として授業の方法や評価などについて理解する。	
到達目標	1. 教育の場に必要な心理学的な知識を取得する。 2. 自ら積極的に、教育現場に必要な心理学の知識とは何かを考え、他者と共有する。	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	01. 教育心理学とは何か 02. 欲求・動機づけ 03. 学習（連合説） 04. 学習（認知説、その他） 05. 記憶（理論） 06. 記憶（方略） 07. パーソナリティ 08. 学級集団 09. 授業の方法 10. 教育評価 11. 子どもの発達段階の特徴と発達課題 12. 乳・幼児期の発達（1）アタッチメント、インプリンティング、生理的早産 13. 乳・幼児期の発達（2）言語と運動機能の発達 14. 幼児・児童期の発達（1）ピアジェ理論・認知発達 15. 幼児・児童期の発達（2）心の理論 16. 社会性の発達と学級集団指導の基本的原理 17. 青年期の発達（1）自己の発達・アイデンティティ・心理的離乳 18. 青年期の発達（2）道徳性の発達・自尊感情 19. 障がいをもつ子どもたちの理解（1）身体機能、視聴覚の障がい 20. 障がいをもつ子どもたちの理解（2）発達障がい	
その他の授業の工夫	・適宜、映像教材を用いて受講者の興味がわくようにする。 ・グループワークや意見発表の機会を設け、主体的参加を促進する。	
時間外学修	復習課題を出して、成績評価に加える。	
評価方法と評価割合	最終テスト（80％）、復習課題（20％）	
テキスト	発達と老いの心理学（サイエンス社）	
参考書	教育心理学・新版～教職を目指す人への入門書（川島書店）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		